

## 第89回メーデー集会開催！！

### 久慈地区メーデー集会 労働3団体主催

《連合岩手 県北地域協議会・平和環境久慈地区  
センター・久慈地区友愛会》

日時 5月1日 15時～

会場 巽山公園(集会後に久慈市内をデモ行進)

参加者数 70名(主催者発表)

来賓 社民党久慈総支部代表 久慈 信 様  
久慈市市議会議員 豊巻 直子 様  
元衆議院議員 畑 浩治 様  
東北労働金庫久慈支店長 佐藤 浩一 様



道の駅「土風館」前を通るデモ行進



開会にあたり、久慈市の歌声サークルの皆さんの協力を頂いて、メーデー歌を全員で唄いました。

デモ行進後には【抽選会】を行い、地元の新山根温泉べっぴんの湯の入浴券が当選した参加者の皆さんに景品として渡されました。

3月の久慈市長選挙で久慈市政2期目に突入した遠藤譲一市長は公務により欠席のため、メッセージを頂戴しました。

### 《メッセージ》

本日、多くの働く人たちの連帯と団結のもとに、第89回メーデー久慈地区集会が、このように盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げます。

現在、久慈市のみならず、我が国においては人口減少や少子高齢化をはじめとし、多くの課題に直面しており、久慈市においても地域の特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう取り組みを進めてまいります。

地方創生を進め、地方が元気になるためには、住んでいる人たちが元気に明るく働く場所があること、安心して子供を産み育てる環境があることが重要であると考えております。今後におきましても、市民の皆様の声にしっかりと耳を傾け、開かれた市政を推進し、雇用の確保等、地域経済の活性化を図ることにより「子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈」を目指し、取り組みを進めて参ります。

結びに、第89回メーデー久慈地区集会のご盛会と、本日お集まりの皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたします。

久慈市長 遠藤譲一

二戸地区メーデー集会  
連合岩手 県北地域協議会主催

日時 5月1日 18:30～

会場 二戸教育会館

参加者数 100名

来賓 二戸市副市長 大沢 治 様  
岩手県議会副議長 五日市 王 様  
二戸市議会議員 及川 正信 様  
二戸市議会議員 鈴木 忠幸 様  
東北労働金庫二戸支店長 菊地 浩喜 様  
※ 下記写真の席順の右側から。



メーデー宣言を提案する  
田中実行委員



ご来賓の皆様からは現在の国政の問題点、岩手として取り組む課題、地元二戸の課題と取り組み、働き方改革の問題点等について具体的なお話をいただきました。また、働く者の生活を支援する一つとして、東北労働金庫の菊地支店長から説明を兼ねてご挨拶をいただきました。

地協からは連合岩手なんでも労働相談ダイヤルへの相談では、県北地域からの件数が多いことを報告し、地域の労働環境の向上を目指すためにも、職場の環境に困っている方へなんでも労働相談ダイヤルの紹介をしていただくよう協力を依頼しました。

一戸にはファンが多かった一野辺製パンのタマゴパンが新たにパントーネ製造の「復刻タマゴパン」として販売が開始されたので、再雇用された労働者への支援として、参加者全員に配布し、味見をしていただきました。

元衆議院議員の畑浩治様のメッセージを読み上げる泉山実行委員



ふっくらボリュームのある  
タマゴパン



# 二戸地区労福協主催 ～防災について～

メーデーの前段では二戸地区労福協主催で「防災について」を実施しました。

県北地域協議会独自の活動として行っている「逃げた先にある安心。もしもの備え」をご来賓を含む全ての参加者に知っていただくために、二戸市広報に掲載している「ぼうさいナビ」と合わせ、「防災について」と題して説明会を開催していただきました。

最初に二戸市防災士の藤田 陽(らら)さんによる「簡単手作り防災グッズ」について説明していただきました。今回は「ツナ缶」にヒモ状にしたティッシュを差し込むと1時間程度は灯りが点いて、ろうそくの代わりになる事を教えていただきました。

他に数種類の手作り防災グッズについての資料も配布いたしました。

防災士の藤田さんによる「ツナ缶ランプ」の実演。

ティッシュをこより状にして細くしていき、長さをツナ缶の高さの2倍程度にする。ツナ缶の中央に小さな穴を開けるか、缶を少しだけ開けて、こより状の物を差し込んで火を点けると完成。

「灯りが消えた後は、きちんと食することも出来ますよ(^\_^)」



## 《逃げた先にある安心。もしもの備え》 もしもの場合、頼りになるのは地域。東日本大震災から生まれた災害備蓄品。 逃げた先にある安心。それがこれからの地域防災のあり方。

非営利型一般社団法人・就労継続支援B型事業所「かたつむり」が東日本大震災から7年経過した3.11に発売した災害備蓄品、商品名「逃げた先にある安心。もしもの備え」。

「かたつむり」から担当の内山 正昭さんにお越しいただき、この商品を考えて、販売にいたるまでの経緯について、現在どのように活用されているのかについて説明していただきました。

かたつむりの内山 正昭さん

試食準備中の実行委員

試食するご来賓の方々



東日本大震災の時、「避難物資を配布します」の声に各物品ごとに長蛇の列が並ぶ。並んで待つことが困難な障害児や年配の方、配布する地元ボランティアの方も自分の家族の安否が確認できていない。もらったおにぎりは冷たく冷え切っていた。支援物資が届くまでの間に温かいご飯が食べられたら、どんなに心の支えになるんだろう…。災害備蓄品や防災バッグは持って逃げるグッズであり、お年寄りには重いし、いざという時は持って逃げる余裕はなく、子供やお年寄りの手を引いて逃げるのが精一杯。なぜ逃げた先に災害備蓄品はないのだろう…。という思いから作られた災害備蓄品です。

温かいご飯を作る時には一緒にレトルト食品や缶詰を温めることができますので、備蓄品の備え方次第では様々な食事を行えます。

